

BIMの現状と展望

“建築情報の統合が実用段階に入ってきた。4次元設計（BIM）の導入と設計事務所へのインパクト”

CPD 2.0 単位

インテグレートドプラクティス（Integrated Practice=I.P.）とは建築プロジェクトにおける企画から設計・監理・建設・維持管理までのあらゆる段階に必要な一貫性ある情報の、公開・共有を図ると同時に統合を進めることにより、コスト・工程・品質等の面でも最も有効で、しかも業務管理の効率化を図るシステムの構築です。世界の IP の流れと日本での対応について、2007 年 3 月から計 3 回シンポジウム形式で皆様にお伝えしています。

IP の主要な道具である 4 次元設計ツールは BIM（Building Information Modeling）と称され、形状以外の仕様やコストなどの情報を統合できるソフトの開発が急速に進んでいます。既に導入検討や試用段階から、2009 年は本格的導入へと多くの設計事務所が動き始めています。

他方、道具の導入が先行しているだけで、この新たな強烈的な情報ツールによって、どのように建設産業全体を効率化し、さらには環境負荷を低減させるのかというシステム構築が遅れています。このシステム構築が IP と称されているものです。本来なら、道具である BIM と IP システム構築とが並行して進まなければ、建設産業の歪みが増大してしまう危険性があります。

今回は、世界の BIM 導入の最新事例と共に、この道具を活用することで見えてきた問題点は何か、日本ではどのような IP のシステム構築が急務か等、議論を深めていきます。

- 主催：(社)日本建築家協会 建設産業基本問題委員会 インテグレートドプラクティス WG
- 協賛： オートデスク株式会社 グラフィソフト ジャパン株式会社 株式会社ベントレーシステムズ

- 開催日時：10月2日（金）9：30～11：30（9：00 受付開始）
- 開催場所： みやこめっせ 特別展示場 B
京都府京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1 tel: 075-762-2630
- 参加費： 無料

➤ 内 容

1. あいさつ・主旨、経緯の説明、 JIA IP-WG 員長 木村 5 分
2. IPD とは 欧米の理念、日本での意義 JIA IP-WG 委員 藤沼 10 分
3. 海外の動向 30 分
オーストラリアでの BIM、IPD 動向 Robin Drogemuller 教授
(クイーンズランド大学)
(ビデオ プレゼンテーション)

オンラインによる質疑回答

4. 日本での 4 次元設計 - 実情と展望 60 分

実際に BIM ソフトを実際に活用している先端建築家により、
日本で 4 次元設計をどのように展開するかディスカッションして頂きます。

コーディネーター： 加賀 有津子 大阪大学大学院教授・博士(工学)・一級建築士
パネラー： 坂田基禎 坂田基禎建築研究所
池田雅信 池田雅信建築デザイン事務所一級建築士事務所
高橋 寛 有限会社 高橋建築研究所
山際 東 株式会社 ビム・アーキテクツ

意見交換含む

以上